

# 欧米におけるIoT最新情勢

⑥

## ベンチャー投資額6兆円のアメリアの現状

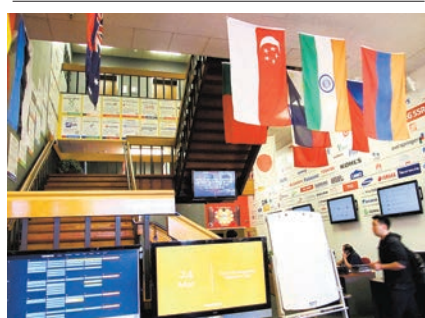
国際IT財団 事務局長 齋藤 奈保

アメリカの一人あたりに入る日本企業は37億ドル(6兆円)で、過去最高水準となっている。日本は1200億ドルであるから、50倍の

1990年代初頭にはアメリカの8割の水準を超えていたが、その後、差が開き続け、2014年にはアメリカの3分の2まで落ち込んでいる。フォーチュン500(グローバルトップ企業ランキング)でも、100位以下

スへの投資額は493億ドル(6兆円)で、企業価値10億ドル超

## イノベーションに向けた「世界への玄関口」



空き部屋仲間を行うエア・ビー・アンド・ビー(同255億ドル)である。日本とアメリカの新興企業の動きは、桁違いの様相を呈している。

シリコンバレーでは、ITに自信のある若者を世界各国から集め、様々なビジネスを発信している。ニューヨークでは、既存の金融産業等との連携のなかで、ITを活用するベンチャー(いわゆるフィンテック企業)が台頭してき

場を調査した。シリコンバレーでは、ITに自信のある若者を世界各国から集め、様々なビジネスを発信している。ニューヨークでは、既存の金融産業等との連携のなかで、ITを活用するベンチャー(いわゆるフィンテック企業)が台頭してき

り、ほっとする雰囲気がある。同センターでは、アルゼンチン、コロンビア、イラン、インドなど世界中から集まった若い起業家たちと話してきた。当然にグローバル展開を考えている彼らが集う様子は、アメリカというより、世界への玄関口のように思えた。そこにはイノベーションへの明確な意志があり、同センターのスタッフが受け止めた。彼らの成長を支えていた。

規模である。投資件数は4000件超で(日本は1000件)、単純計算で1件当り10億円超の規模である。

の企業を「ユニコーン」と呼ぶが、アメリカには50社存在するといわれる。筆頭は、配車アプリで世界中を席巻しているウーバー(企業価値510億ドル)や、

国際IT財団では、2016年3月にアメリカのサンフランシスコ・シリコンバレー、ボストン、ニューヨークを訪れ、世界をリードする新産業創出の現

ている。ボストンでは、MITの人的ネットワークを背景に、IoTによるハードウェア産業が起きつつある。

シリコンバレーでは、インキュベーション施設の草分け「プラグアンドプレイ・テックセンター」を訪れた。同センターはグループを輩出したことで有名である。サンフランシスコの郊外、シリコンバレーの中心サニエールにある同センターに入ると、入居企業の国籍と思われる万国旗に迎えられる。最先端のインキュベーション施設ということで、新しく、無機質な白を基調としたオフィスが想像されがちだが、実際の施設は元フィリップス・セミコンダクターの社屋を使ったもので、とても温かみがある。

次回、同センターの具体的な取り組みを紹介する。